



地表から数百km上空を地球観測衛星という人工衛星が回っています。リモートセンシングは、この衛星から送信されるデータを駆使して地球表面の環境変化を探る技術のことです。授業ではコンピュータを使い、その処理と解析を学びます。また一定地点のデータを数年おきに比較し、その環境変化を読みとる実習も行います。

この講義の特色は、解析処理のためのソフトが入ったパソコンを50セット用意していること。1人1台ずつ使える環境があるのは日本ではここだけ。だから技術がしっかりと身につきます。とくに後期は実習中心。私の授業は出席をとりますが、休む学生はほとんどいません。学年末のレポート

提出では、地球上どこでも好きな地域を解析できます。また、酸性雨の森林への影響や砂漠化、ニュータウンの造成による緑地の変化など、自分の興味があることをテーマにできます。それがまた面白いんです。自分で理論を組み立て、それを自分で確かめるのですから。

新しいカリキュラムを積極的に取り入れているのも地理学専攻の大きな特徴でしょう。地理学は技術革新の進歩が非常に早い分野。当然、その流れに合った新技術の習得が必要になりますが、その点、ここでは十分にそれに対応し、時代が求めていることを学べるはず。したがって、地理学専攻の学生は社会に出ても大学で学んだことがすぐに生かれます。そのため、卒業後は地図製作会社、リモートセンシング解析会社といった専門性が生かせる企業への就職も多く、実際、卒業生の評判はとて素晴らしい。この専攻は文学部にありながら理学的な学問ができる、文理融合の専攻。数学は苦手だが自然地理学を学びたい人も歓迎です。

地理学専攻では、インターネットのID取得を全学生にすすめています。リモートセンシングや地理の情報収集にインターネットは必須。ちなみに当教室のアドレスは以下。一度アクセスを。

■<http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/>

Student's Voice

リモートセンシングってなに？
と思った人はたくさんいると思います。これは地球上空を回る地球観測衛星から送信されるデータを使い地球表面の変化を見るというもの。これについては講義のはじめに長谷川先生が、基礎的な知識を丁寧に教えてくれます。その後で、各自で地域を選び情報科学センターのパソコンを使って処理、解析し、最終的には自分で土地被覆分類図を作成できるようになります。専門性の高い技術が身につくので、就職にかなり有利です。関連の企業に就職された先輩も数多くいらっしゃいます。(中西千秋 ● 文学部・地理学専攻3年/東京都立富士森高校出身)

